

市数研だより

平成15年11月27日発行

no. 4

熊本市中学校数学教育研究会

ふと思うと、平成15年もあと1月あまり。毎年、時間のたつのは早いものだと思ってしまう。今年の数学県大会も大成功のうちに終わりました。いよいよ、熊本市の県大会まであと1年ということです。時の流れの速さに流されず、しっかりと腰をすえて取り組んでいきたいものです。さあ、皆さん、数学の教師として、一緒に数学の授業について熱く語りませんか？

第5回定例会の報道です

11月の市数研定例会が、11月20日(木)、藤園中学校図書室で行われました。あいにくの雨、各学校では期末テストを控えている忙しい時期という状況でしたが、来年の県大会で授業に取り組まれる先生方も多く参加され、県大会に向けての動きが本格的、具体的になってきました。

1 オープニング

市数研会長の稲津孝夫校長先生(桜山中)より今年の県(宇城)大会が先週終わりました。さあ、いよいよ次は熊本市、私たちの番が来るぞという感じを抱きました。来年の県大会までまったなしです。みんなのチームワークで臨みましょう。そのためにも、ぜひこの定例会への参加者が増えるような働きかけをしていきましょう。



2 県数(宇城)大会に参加して

(野田先生：西原中)

3年生の関数の授業を参観した。授業の導入に斜面を転がる物体のビデオが使われていた。斜面を転がる物体の速度がどんどん速くなっていることが実感としてわかるように工夫されていた。「時間」と「距離」に着目させるところの発問に、もう少し工夫するとどうだろうかと感じた。なぜ「時間」と「距離」なのか？子供はどう感じていただろう。

そのあとの展開は教師の側から適切にヒントを与えられながら、子どもたちは「これは一次関数じゃないぞ」「反比例かな？」とつぶやきながら、 x と y の関係を式に表すところまでいっていた。自分のこれまでの経験からは、(とても立式は無理ではないか?)とっていたので、子どもたちが自ら立式できたことにとても驚い



た。

(山内先生：錦ヶ丘中)

その授業後の分科会に参加したが、授業者の先生も「立式化までいくとは予想していなかった」と発言されていた。ヒントカードの与え方で気づくことが出来たのではないか。私の経験でもあそこでなかなか式はでてこない。

(野田先生：西原中)

もう1時間は、2年生の一次関数の導入で「ゴミ問題を考えよう」という題材の授業を参観した。宇土市のゴミの量が増え続けていることを題材にして、「このままゴミが増え続けると、何年後に焼却できないことになるか？」という課題を追求していった。最後のまとめがやや不十分だったのではないかと感じた。授業の先生は教材研究の中で宇土市役所の実際の今後の予想なども取材されていたこと。そのこともせっかくだから授業で生徒に知らせてみてはどうだろうか。また、一次関数の導入として扱うのは無理があったのではないかと感じた。資料の中に前年度より減少している年度もある。子どもたちはどんなふう考えたのか。

(東先生：帯山中)

3年生の「地球温暖化問題を関数で考えよう」という授業を参観した。子どもたちが、この課題を自分たちのこととしてどれほどとらえているのかということに注目していた。授業の流れは、問題提起をして、それを追求していくという形だった。

生徒の発言も少なく、計算も大変そうだった。授業研究会の討議の柱として「主体性」と「有用性」を掲げて検討された。助言者からは、「課題学習と単元との関連をどうしているのか？」などの指摘があった。なぜ、TTだったのか、複数の教師でやるということが必要だったのかとなも感じた。

(宮崎先生：藤園中)

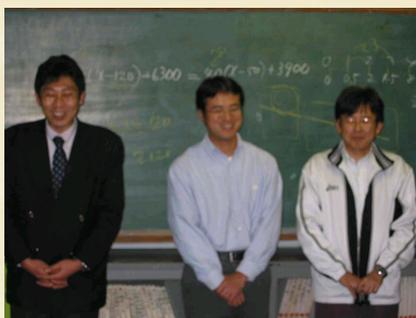
2年生「携帯電話の料金」についての授業を参観した。課題学習の題材としては身近なもので、自分も授業に使えないかと考えたこともあった。

実際に子どもたちはどんな方法でこの課題を解決していくのかを注目してみた。グラフを使うのか。式を使うのか。表を使うのか。自分も授業をみながら式で解いてみた。とても深い内容であるということに気がついた。授業のネタとしては十分に使えると感じた。

3 来年の県大会に向けての検討

稲津会長より、来年度の県大会に向けての研究組織が提案されました。

そして授業者6名の紹介もありました。授業担当学年も仮決定しました。6名のうち5名の先生は今回の研究会にも忙しい中、参加いただきました。授業に向けての決意も一言ずつ語っていただきました。



県大会授業者の先生方です。 写真の左より山内先生（錦ヶ丘中）・出口先生（力合中）・野田先生（西原中）そして猿渡先生（井芹中）・園川先生（西山中）です。もうひとりの授業者の北里先生（東町中）は所用で欠席でした。

そのあと、各学年に分かれてどのような授業を提案していくのか、第一回目の具体的な議論をしました。授業者の先生の中には小学校を経験された方も多く、来年の授業研の大きな柱である「小中連携」にも大きな示唆を与えてもらえそうな予感がします。

4 県大会に向けて「市数研のすすむ道」の提案

（桃崎先生：武蔵中）

授業をされる先生の負担は大きいと思うけど、一番思い出に残るのも授業者だと思います。今年の県大会を参観し、「授業研究の深さ」が大切だと思うことを痛感しました。何よりも授業で勝負。これからのスタッフの想像を絶する集中力と研究心が期待されるところです。

また「全体の方向性を明確にすること」も今後の大きな課題です。さらに今年の県大会で学んだこと、気づいたことを来年の熊本市大会で生かさなければなりません。例えば、大会の看板は持ち回りです。「これを持って帰らないと…」と何人の方が気づいたのでしょうか。来年参加者を増やすために、市のメンバーがいろんなところで声を挙げていかなければなりません。

12月に「子ども輝きプラン授業研究会」が行われます。ぜひお互いの学びの場としての高い意識を持って参加しましょう。「教材」「指導法」「教具」「学習形態」の視点で授業を斬ってみましょう。



5 エンディング

まとめ（副会長高見校長：二岡中より）

「これからチームの中での連携をはかって、よりよい授業を作ってください。県大会をみんなの力で『やっぱ熊本市は違うばい』といわれるようなものにしましょう。」

（写真は熱心な議論を展開している、参加者の先生方）

以上、11月定例会の報道でした。



お知らせ・お願い

1 2月8日(月)「子ども輝き授業研究会」の夜は、市数研の忘年会を行います。是非皆さん、ふるってご参加ください。

1 2月はこの定例会は行いません。次の定例会は1月の第3木曜に行います。今年度は3月も定例会を行なう予定です。

計算力テストを各学校に送付しました。ぜひ各学校実施されて、その結果を帯山中の東先生まで送付ください。

県の学力テストの申込み、お忘れの学校はありませんか？早めをお願いします。

熊本県数学教育研究会のホームページに、この市数研の取り組みが随時アップされています。この紙面の写真をカラーで見ることができます。みなさん覗いてみてください。

県中数研HP(ミラーサイト) <http://128.121.222.29/kumamoto/> から「各支部たより」に入ってください。パスワード「kumath」が必要です。(セキュリティの関係上、他のサイト等にリンクは貼らないようにお願いします。)

<おわびと訂正>

これまでのこの「市数研だより」で会長の稲津校長先生の所属校が誤っていました。湖東中は誤りです。正しくは桜山中です。東先生ならびに関係各位にご迷惑をおかけしました。

この紙面をお借りしておわびと訂正をいたします。

定例会への多数の先生方のご参加をお願いします！！
各学校から1名、是非お願いします！
皆さんと共に歩む市数研です。

(文責：京陵中学校 出崎友英)